
スカイダンシング

さつまあげ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スカイダンシング

【Nコード】

N5857E

【作者名】

さつまあげ

【あらすじ】

現代。レシプロ戦闘機が飛び交う。その中で主人公は飛ぶことへの喜びを憶える。

ブローグ

まわりにはたくさん飛行機がいた。

いつもよりにぎやかでいたるところで尾を引いていた。

ほとんど爆撃機で、戦闘機もたくさん。

合計いくつのブローグがあるのかと考えてみた。

左右には遼機が1機ずつ。

今回の任務は爆撃機の護衛、あと30分もすれば帰れる。

「敵、10時の方向」

1番機から無線が入りその方向に目をやる。

スロットルハイ、エンジンが唸る。

他の1隊も後方から向かってきたようだ。

敵は、

8機。

すでに散開しはじめている。

増槽は落とさなくて大丈夫だろう。

僕は左へいった奴を追う。爆撃機の方はすでに方位を変えている。

相手は右へ急旋回。そのまま追う。スロットルを絞る。

機銃の安全装置をきる。フラップを下げてそのまま追う。

まだ。

まだ。

今。打つ。2秒、離脱。

敵機は黒い煙をあげていた。

索敵する。

ほかの奴らはもっと高いところで踊っている。

無線になる。

「スターロイ、あがつて来い」

1番機が僕のコードネームを呼ぶ

どうやら終わったようだ。

僕はよつくりと元の高度へとゆつくりとあがって行く。

爆撃機の護衛はその後数分で終わり、帰路につく。

限りなくつづく青。そこには何もなくて、愛も、憎しみも、人も。嬉しい。飛べることは。

自由で。

空はオレンジ色に変わり、高度を下げ、雲と一緒に飛ぶ。

ちょうど太陽が見えなくなったとき滑走路が見えてくる。

3番機、2番機、1番機の順で着陸する。

3番機の川上が降りていくのを、飛行場をローパスしながら眺める。着陸許可が下りたので着陸態勢へ。

3マイルでギアダウン。速度を落とし機首を持ち上げる。

きゅっという後輪の接地音が聞こえた。

機首が下がっていく。前輪の接地とともにギアブレーキ。

ごろごろとタイヤが回る。そのまま格納庫の前までタキシング。キヤノピーを開ける。

エンジンをきる。汚いツナギを着た整備工が近づいてくる。

「おつかれ」

彼が言う。

「何か問題は？」

「うん。特にないね。よかったよ。」

「それはありがとう」

彼はそういつて僅かに笑った。

ほかの整備工たちが機体を引き入れる準備をしている。

機体をまかせて事務棟へと歩く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5857e/>

スカイダンシング

2010年10月28日08時34分発行